

# 現地支援委員会

ニュースレター

「第22号」

2016年3月16日



from 東北

全国諸教会の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。東日本大震災から5年が過ぎました。5年では到底区切りがつかないことも沢山ありますが、しかしこの5年の歩みを振り返りつつ、各地で追悼の集いが行われました。今号では、東北の教会で行われた追悼と祈りの集いの様子や被災地の様子、また野田村支援の様子をお届けします。なお、委員の一人である金子千嘉世牧師に病が見つかり、半年間宮崎で治療することになりました。金子牧師の回復と郡山コスモス通り教会のためにお祈りください。

現地支援委員会活動報告 DVD 2016 を2月17日付けで全国発送しています。ご利用ください。

## 野田村仮設住宅支援活動

- 2011年8月に初めて野田村を訪問してから4年半が過ぎました。当時5カ所195世帯あった仮設は2016年3月現在で3カ所(野田中47、泉沢7、門前8)となりました。
- 予定では3月末には復興住宅が完成して大半の方が4月か遅くとも5月には新しい家に移られることが決まっております。入居者の減少もあって野田中、泉沢の集会所も閉じられることが決まりました。
- 55回続いた集会所でのお茶会も3月18日(金)が最後となります。主イエス様の恵みと全国の皆さまのお祈りとお支えを受けて、野田村の皆さんとお交わりを持つことができました。



- 全国の皆さんから送って頂いたお菓子や贈り物は仮設の皆さんを笑顔にし、「私たちは独りでないんだね」と希望を与えてくれました。毎回「今日は北海道から、青森から、八戸から来ました」と挨拶する度に「遠くから来てくれてありがとう」「申し訳ない」と言ってくれる言葉に胸をつまませます。
  - この活動が継続できたのも全国の皆さんのお祈りとお支えはもちろんのこと、チームとして共に協働してきた一つの教会の絆があってこそだと思います。「最後のおひとりまで」という祈りを与えられてきた私たちですが、まだ当面新しい家の完成を待たなければならない方もおられます。これからも野田村をおぼえてお祈りください。
- ☎ 2011年9月20日 (鮫バプテスト教会 林 健一)  
野田中集会所での初めてのお茶会の様子

## 野田村仮設住宅訪問活動での「協力」の恵み

2011年8月9日、函館美原教会が野田村の仮設住宅2ヶ所をかき氷をしたのが、野田村仮設住宅訪問の始まりです。けれども、北海道の一教会の活動だったならば、今まで続けることは不可能だったでしょう。しかし、すぐに鮫教会の林健一牧師が、野田村への継続的な支援活動をしたいと言ってくださり、時を同じくして北海道連合の災害対策委員会からも協力の表明がなされ、翌月12日には、八戸教会で野田村仮設住宅訪問の協議会を開いて、この活動を定期的実施することが決まりました。

この活動は、青森・岩手チームと北海道連合との協力で行われてきたユニークな活動です。鮫教会や八戸教会は、野田村に最も

近い拠点教会として、大きな働きを担いました。北海道の教会は、企画立案なども交替で担いながら、参加者を送り続けました。もちろん、青森・岩手の近隣教会は、いつも参加者を送り続けました。それだけではありません。全国の諸教会・伝道所から、この活動のためにと多くの物資が届けられました。

この活動を振り返る時、「協力」という二文字が強く心に残ります。仮設住宅への訪問は終結しますが、ここまで培ってきた協力関係を、今後も野田村のために新たなかたちで活かすことができればと願っています。

これまでの皆様のご協力に心から感謝申し上げます。  
(函館美原キリスト教会 福田雅祥)

## 震災から5年を数えて・東北の教会や被災地での3・11

☎ 仙台教会  
「3・11追悼と黙想の夕べ」お二人の証言をいただき、マリンバとピアノの演奏の中、黙想の時を持ち、詩の朗読が行われました。



☎ 郡山コスモス通り教会  
3月11日5年の歩みを、証と祈りを含めて振り返る「東日本大震災を覚える夕べ」



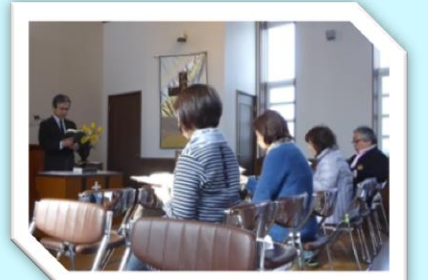
☎ 南光台教会  
「大震災5年を覚える追悼祈り会」震災当時、教会に避難した方々と共に祈りました。



☎ 長命ヶ丘教会  
震災から5年経った3月14日、宮前仮設住宅を出た方々を訪ねて嬉しい再会の時



☎ 仙台長命ヶ丘教会  
「3・11追悼と黙想の集い」14:46に5分間の黙想をしました。



☎ 大富教会  
「3・11を覚える祈り会」5年を振り返り、祈りと14:46に黙想を行いました。



☎ 牡鹿支援でお配りしたスイーツとカード